

# 令和元年度第1回鳥取県総合教育会議 議事録

## 1 日 時

令和元年5月30日（木） 午後2時から午後4時まで

## 2 場 所

とりぎん文化会館 第3会議室

## 3 出席者

知事 平井伸治  
統轄監 高橋紀子  
教育長 山本仁志  
教育長職務代行者 中島諒人  
教育委員 若原道昭  
教育委員 佐伯啓子  
教育委員 鱸 俊朗  
教育委員会事務局 教育次長 足羽英樹

有識者委員 青戸 忍  
有識者委員 石原太一  
有識者委員 大羽沢子  
有識者委員 上萬貴志  
有識者委員 長曾加奈子  
事務局 元気づくり総本部長 加藤礼二

## 4 あいさつ

### (加藤部長)

- ・令和元年度第1回鳥取県総合教育会議を開催する。開会に当たり、平井知事から挨拶を申し上げる。

### (平井知事)

- ・新学期も始まり、子どもたちが元気に学校に通っているところだが、この度、川崎市で子どもたちが襲われるという残念な事件が起き、教育の世界ではこうした子どもたちの安心安全ということも大きなテーマだということを改めて知らされた心地がしている。
- ・本日は、昨年度の大綱に基づく事業の評価、令和元年度が始まり、新しい教育のスタイルをどのように作っていくのか、その計画となる大綱等についてご審議いただく。また、来週から始まる県議会に、いよいよ県立美術館設置条例を提出することとしており、そういった最近の動きも含めてご意見いただけたら有り難い。

- ・昨年度の状況からすると、残念ながら、私どもが目指していた学力向上等に繋がったとは言いにくい状況もあり、英語教員の指導力についても目標を達成する勢いではなかったと思う。まだ解決しなければならない課題が色々ある中で、不登校の問題もクローズアップされることになった。また、本日の会議終了後、県庁の各部局が中心に集まり、県警も入って、子どもたちの安心安全について対策会議を開催する予定であるが、改訂する教育大綱の中にも、安心安全のことを反映していくべき部分があるのではと思う。皆様のお力で、なお一層鳥取の子どもたちが輝き、鳥取県の未来が湧き上がってくるような計画づくりに進めばと思う。
- ・「私はなにも恐れることがない。私は何かをなすためにこの世界に生まれてきた」。野口英世の言葉である。それぞれの子どもが人生をかけて努めていく役割というのがあると思う。私どもが育て上げていき、その後自らの力で立ち上がり世の中を変えていく、そのような人材を作っていかなければならない。皆様からお力添えをいただければありがたい。以上、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。

**(加藤部長)**

- ・続いて、山本教育長にご挨拶をお願いします。

**(山本教育長)**

- ・平井知事をはじめ、有識者の皆様には、日頃から鳥取県の教育に深い関心を持っていただき、多大なるご尽力・ご支援を賜っていること、改めて感謝を申し上げます。
- ・川崎市で通学バスが狙われた事件が起きた。実のところ、通学バスは、国が示している登下校防犯プランの中で安全確保策として推奨されている方策であったが、そうした中でこの事件が発生し、衝撃を受けているところである。改めて「安全に絶対はない」ということを痛感させられ、安全を守っていくための不断の努力が必要であると感じている。この事件を教訓にしながら、安心して学べる環境づくり、またこうした犯罪を生まない社会づくりというものをぜひ皆様にお力添えいただきながら進めていく必要があると感じている。
- ・また、教育分野においては、グローバル化、A Iの進展、若者の県外流出、大きな社会問題となっている教員の働き方改革など、こうしたことに、私どももしっかりと対応していかなければならない。
- ・令和2年度から、小学校に新しい学習指導要領が全面実施となり、小学校に英語が導入されるほか、プログラミング教育が入ってくるという流れができています。また、高大接続の入試改革が行われることもあり、こうしたことを喫緊の課題として対応していく必要があると考えています。このような中で、総合教育会議の皆様には、教育に関する大綱等々をはじめ、様々な視点から意見をいただくことに感謝し、鳥取県の教育がより進んでいくことにご協力をお願い申し上げ、冒頭の挨拶とさせていただきます。

**5 意見交換**

**(加藤部長)**

- ・それでは意見交換に移る。まず、平成30年度教育に関する大綱の評価について、足羽教育次長に説明をお願いします。

### (足羽教育次長)

- ・教育に関する大綱の評価について、資料1-1と資料1-2をご覧ください。大綱に掲げる評価項目78項目中、目標を達成できたとするA評価と、目標を概ね達成できたとするB評価を合わせて59項目、約76%と概ね成果を上げることができたと評価している。
- ・達成できた主な項目は、「英検準1級以上の英語力を有する高校の英語科教員の割合」で、97.5%と、全国でも1位を記録した数字となる。コミュニティスクールについても、小中高、特別支援学校を含めた全学校で導入することを目標としており、現在、62校まで導入し、順調に成果を上げているところ。特別支援学校高等部の卒業生の就職率、職場定着率についても学校現場の努力や企業の協力を得て、100%に近いようなところまで来ている。
- ・一方で、課題もたくさん残っており、学力・学びの質については、算数・数学の知識に関するA問題、活用に関するB問題について、全国に及ばない状況が近年続いているところ。今後の具体的な取組改善方法としては、資料の囲みに掲げているが、家庭学習の質の向上の推進、活用問題の活用、単元別達成度の確認等、各地域での取組を全県展開していくところ。
- ・教員・生徒の英語力については、「英検1級以上等の英語力を有する中学校の英語科教員の割合」、「英検準2級程度以上の英語力を有する生徒の割合」においてまだ課題があり、指導者の指導力、生徒への英語力の育成という観点で、外部試験を活用して生徒の英語力を検証し、英語4技能においてどの力が弱いのか、どういった特徴があるのかを明確にしながら具体的な指導方法の工夫・改善に繋げていきたいと考えている。
- ・地域や社会で起こっている問題等への関心や地域行事への参加について、別紙をご覧ください。ふるさとキャリア教育に関する系統的な取組について、昨年度に引き続き、より具体的に鳥取県で生まれた子どもたちが、ふるさとに誇りと愛着を持ち、ふるさとをしっかりと振り返ることのできる人材育成を図っていきたい。小中高と、今現在取組は進めているが、そこに1本筋を通し、体系化・見える化して取組を付加していきたいと考えている。卒業後の企業等との関連等も付加することを考えており、そのような新たな取組を6月議会の補正予算に計上しているところ。
- ・不登校問題については、こちらも目標を達成することができず苦慮している。原因を特定するのは難しいが、一人一人の子どもたちの背景等に注目し、早期発見、早期対応を行う。また、今後の対応については、教育相談体制充実の手引きを活用して、ケース会議の立ち上げなど、体制の整備に努めていきたい。
- ・学校に通えない子どもたちの学習機会を確保するため、6月補正でICTを活用した自宅学習支援、将来的には出席扱いにも繋がるような形で支援を試行していきたいと考えている。

### (加藤部長)

- ・続いて、資料2-1、2-2の鳥取県の教育に関する大綱の改訂について、林課長に説明をお願いする。

### (林課長)

- ・資料2-1をご覧ください。昨年度の第2回・第3回の総合教育会議の議論を踏まえて、最終的な改訂案としてまとめさせていただいた。基本的な方向としては、前回の策定の構成を継承しつつ、3月に策定された教育振興基本計画の内容を網羅、今の社会の状況を踏まえたものを課題として、取り組む方向として設定している。次期大綱については、期間を今年度から令和4年度ま

での4年間としている。第一編については、前回の会議でも素案を提示したが、2の柱に「ふるさと鳥取」を支える「人財」の育成、3の柱に時代や社会の変化に対応できる教育環境の充実を新たな柱、拡充した柱として全体を構成している。

- ・昨年度の第3回の総合教育会議で委員の皆様からいただいた「教育相談体制の充実」、「デジタル化教材等の活用」、「障がい者スポーツ拠点」の記載内容の部分についても見直しを行い、第一編をまとめている。
- ・先ほど、知事、教育長から話もあった子どもたちの安全に関しては、資料2-2の4頁の中程をご覧くださいと、「通学路の安全対策や学校施設の質的向上に取り組むとともに、学校の防災力強化や防災教育の充実、健康教育や情報モラル教育の推進など、子どもたちの命や安全を守る取組を進める」と明記しているが、今回の事件も踏まえて、記載内容については教育委員会と調整をして見直ししていきたいと思っている。
- ・第二編については、大きな柱の項目を前提とし、それぞれの重点項目を再度提示して並べている。1の柱「学ぶ意欲を高める学校教育の推進」については、県立高校の在り方の検討や、学力向上策の推進、英語教育の推進について主な重点施策として取り上げており、2の柱「『ふるさと鳥取』を支える『人財』の育成」については、ふるさと教育の推進、キャリア教育の充実の部分を重点施策として取り上げている。3の柱「時代や社会の変化に対応できる教育環境の充実」については、いじめ防止等への取組の充実や多様な学びの機会の確保、成人年齢引き下げに伴う消費者教育の推進について、今回は新たな記述を加えさせていただいている。5の柱「スポーツ・文化芸術の振興」については、運動部の活動について適切な休養日の設定や複数の生徒が参加するような合同部活動の取組などの検討、障がいの有無に関わらない文化活動等の推進、県立美術館の整備推進についても記述を加えさせていただいている。
- ・今後のスケジュールについては、本日の総合教育会議の皆様方の議論を踏まえて、いただいたご意見を最終反映させていただき、皆様方の意見を聞いた上で7月を目途に最終的なものを改訂として策定したいと考えている。次回の会議等でも報告させていただく。詳細は資料2に記載しているので、事前にご覧いただいているとは思いますが、そちらで説明に代えさせていただく。

#### **(加藤部長)**

- ・続いて、資料3の県立美術館整備の取組状況について、博物館美術館準備室の漆原室長に説明をお願いします。

#### **(漆原室長)**

- ・資料3をご覧くださいと思います。美術館整備については、昨年度基本計画を策定し、その中で整備運営手法として、PFI手法を導入することを盛り込み、現在、事業者選定の審査会を設置するとともに、PFI法に基づく実施方針の公表等の検討を進めてきたところ。この度、美術館を設置するための条例、それから事業者と契約を取り行うための予算について6月議会に提案させていただくこととしている。
- ・「未来をつくる美術館」を美術館のコンセプトとしており、アクティブラーニングセンターを一つの大きな特徴としている。併せて県内の美術館ネットワークを構築して、そのサービスを鳥取県の全域にわたって享受できる環境をつくり上げていこうというもの。事業方式として、PFI及びBTOということで、全国の公立美術館では初の新設PFI事業である。事業期間としては、約20

年間の契約を行うこととしており、その総予算額149億円を6月補正で要求させていただいている。業務範囲については、設計・建設から運営まで一括して契約を行うが、美術館の中核となる学芸業務については、引き続き県の業務として実施する。そして、民間事業者を美術館の指定管理者に指定し、広報宣伝、賑わい創出を分担していくということになる。施設整備の概要は資料3のとおりで、倉吉市営ラグビー場に建設することになっている。

- ・整備の規模については、現在の県立博物館と同程度になる9900㎡を計画をしているところ。今後のスケジュールは、6月議会での予算、条例の議決後の7月に事業者募集の入札公告を行い、今年後半に県民参加型の公開プレゼンテーション、これを含む審査を行って事業者を決定していきたいと思っている。令和2年度前半に設計・建設工事ということで、順次着手し、令和6年度中の開館を目指していきたいと考えている。
- ・資料3の4に記載している美術館整備に向けた学校教育との連携については、今の段階から招待による鑑賞事業等を先行させながら行っているところ。簡単ではあるが、報告とする。

#### **(加藤部長)**

- ・これより、各委員から順にご意見を伺いたい。まず、長曾委員からお願いします。

#### **(長曾委員)**

- ・平成30年度の教育に関する大綱の評価について、難関国立大学の合格者数の評価Cとなっており、今後の課題として、教科指導力の向上、学力の向上を図る事業を引き続き実施するとある。その一方で、英検準2級程度以上の英語力を有する高校生の割合も評価がCとなっており、今後の課題として、特に話すこと、書くことの2技能を強化・伸長する指導実践の普及が必要とある。これを読んで、現在の高校英語教育において、この2つを同時に達成できるような最善の方策が実施され得るのか懸念される。難関国立大学に合格する生徒を多く育成することと、英語が実際に使える、書ける、話せるという生徒を育てるということの両立の難しさが、現在の高校英語教育の難しさに直結しているように感じる。単純に英語を話せる、書けるレベルの英語力、英検準2級、2級程度に合格できるレベルの英語力、難関国立大学の読解問題で及第点を得られるレベルの英語力の間には随分と差がある。グローバルな人材育成の観点からすると、英語が使えるれば十分だと考えられるが、その程度の英語力を測る試験では差がつかないため、難関国立大学はより難関な問題を出しており、現状の問題点が生まれてしまうと思う。
- ・予備校で英作文の講座を担当しているが、以前と比べると明らかに生徒の書く力は向上しており、読みやすく、相手に意図を伝える明確な文章を書く生徒が増えていると感じている。これは、高校でwritingに重点を置いた授業が成功していることを証明していると思う。その反面、文法の力が弱まったと感じられる場面が非常に多くなった。作文力は、中学生レベルの単文が正しく書かれていれば、それを接続語で組み合わせて複文にすることで、合格点の解答を作ることができる。しかし、読解となると、高度な文法解釈を求められる場合も多く、国立大学の多くが2次試験で読解形式の問題を多く課しており、文法学習を疎かにすることはできないと思う。生徒たちは、塾に通うこと等により、学校では賄えない文法理解に努めているということになる。入試で求められる文法力は以前と変わらないが、学校での授業はアクティブラーニングの取組に変わり、そのこと自体は素晴らしい取組だが、従来型の知識教育については、大部分が個人に任されており、生徒たちへの負担が増えていると思う。私が、現在、接している高校生から英語の授業について聞くと、分から

ないまま授業が進み単元が終わってしまったという状況が続くため、ほぼ良い評価を聞いたことがなく、生徒が満足していないと感じている。そのため、難関国立大学の合格者を増やすために、生徒にとってどのような指導が最善なのか、再考する必要があるのではと考える。

**(加藤部長)**

- ・続いて、上萬委員にお願いします。

**(上萬委員)**

- ・遊びの王様ランキングについて、昨年度末、私が所属している保育園が1位を取ったため一緒に表彰式に同行した。その場に、県立高校の女子学生が出席しており、学級活動の一環で遊びの王様ランキングを活用されたのかなと思い、今までは、小学校、中学校が中心となっていたが、高校も参加しており、幼児部門から高校生までしっかりと体づくりを行うということで、この取組が横に広がりを見せており素晴らしいなと感じた。
- ・先日、保育園の近くの小学校で体力測定の場面を見学させていただく機会があった。投げる姿、立ち幅跳び等体育館で見学させていただいたが、その際、ギプスをはめた子どもが4人おられ、骨折なのか、正確な情報は分からないが、少し驚きながら見学をした。保育園ではそういった子どもはあまり見かけなかったが、体を支える力が体の成長に伴っていないのかなと感じた。
- ・幼児体育というのは、要は遊びであり、投げる力、走る力、飛ぶ力、引っ張る力、握る力、体を支える力が付くようにそれに基づいた遊びを行っている。スポーツも大事だが、その前提のところ自分の体を支える力というものが、本当に付いているのかなと不安に思った。ワンミニッツ・エクササイズなど、県では体づくりの取組を進めているが、自分の体を守っていく力を学校生活等でつけていく手立てはないのかなと感じている。
- ・大綱の改訂案の15頁にある指標の「小学校において体育の授業を除く1日の運動時間が1時間以上の児童の割合」について、私も小学生の子どもがいるが、生活スタイルを見ていると、学校から帰り1時間の運動する時間を確保するのは大変なのではと感じている。例えば、1週間で7時間とか、土・日に多めに時間を取る等のやり方だったら分かるが、1日1時間以上というのをどのように確保していくのかなと思う。
- ・県外に出張等で行き、ランニングをする際、芝生の公園を探すがなかなか見つからない。鳥取県は芝生の上で力一杯走れる環境にある。鳥取市の芝生の公園化が進んでおり、鳥取県はすごく良い環境にあると感じた。ただ、そこで遊んでいる子どもたちの姿をあまり見ることがないため、とても素敵な環境なので、子どもたちに芝生の上での遊び方をしっかりと伝えていければと感じている。親では難しいことなので、教育現場からも働きかけをしてほしいと思う。以上、運動指導員、子どもの体力づくりという面で話をさせていただいた。

**(加藤部長)**

- ・続いて、大羽委員にお願いします。

**(大羽委員)**

- ・仕事柄、大人の方の相談を受ける機会が多くなってきたが、皆さん、学校教育のことを引きずって職場に来られる。何か新しいことに挑戦する時、人と比べて私だけできないと感じ相談を受けることがある。話を聞くと、「万遍なく私はできないといけない」という思い込みがあり、及第点を取

っているはずなのに「完璧にできないといけない」というところで、非常に自己肯定感が落ちていると感じる大人の相談を受けることがある。

- ・振り返って学校のことを見ると、これだけ多様性のある児童がいることが分かってきている社会の中で、今までと同じような一つの指導方法で良いのだろうかと感じる。できるところ、できないところを総合的に評価して励ましたり、ポジティブに支援することが今の学校教育にとっては大変必要ではないかと思っているところ。
- ・算数の学力向上について、昨年度学校を回った際、指導主事が指導した小学校算数のとてもいい授業を拝見させていただいた。構造がすっきりしており、1年生の子どもが楽しく学んで力が付く授業だなと思った。授業は毎日行われるものだからこそ、きちんとしていかなければならない。こういった日々の先生の積み重ねが学力向上に繋がっていくのではと思った。ぜひ指導主事による小学校算数の訪問指導の取組を続け、そういうところを見て評価していただけたら有り難いと感じた。
- ・学習障がいスクリーニングについて、昨年度、早期介入した子どもたちのその後の学力がどのように伸びるのか研究を行った。子ども一人一人を見ることで、先生の目が行き届き、トレーニングアプリを使って介入することで、今まですごく手のかかっていた子どもの数が随分減った。算数の学力向上についても同じことが言えると思う。1年、2年の時に対数的計算力が伸びてくる。学力とどのような関係があるのか今まで明らかになっていなかったが、ここ数年、小学校等に協力をいただき追っかけてきた結果、1年の時に早く手立てを打ってあげることで、学力の低下を防ぐことができ、そうでない場合は、伸びが遅く、学力が低下したままで終わるという結果が出た。早期に発見し、訓練を行い、それでもゆっくり伸びていく子どもたちには、学年相応の狙いの授業に参加できるような合理的配慮を行う。私たちのこのような知見も学校現場で活かしていただきたい。
- ・不登校対策について、予防的・組織的に取り組んでいくことが大切である。文部科学省が出している「生徒指導提要」にもあるが、積極的な生徒指導や、教育相談体制の充実の中で、ポジティブに子どもたちの行動を支援し、支えていくことが大切だと言われている。最近、中四国や関東、関西のいくつかの学校でも、学校全体で取り組むポジティブ支援というものが広がってきている。その広がりが、鳥取県の中でもいくつか広がってきているようなので、今後は予防的・組織的な介入をしていくことをご検討いただけたらと思う。
- ・学校現場における臨床心理士の活用について、お配りしたパンフレットの中の「診断がなくてもできる！教育における心理士活用のフローチャート」をご覧ください。アンケートを取ると、「診断がないと支援できない」と言われることもあるが、そうではなく、子どもの実態に応じて早めに手立てを打ち、それでも難しい場合は病院で受診したり、情報をとる。まずは学校の中でできることに取り組んでいただければ有り難いと感じている。臨床心理士も公認心理士という国家資格ができ、責務が大きくなったと感じており、日々研鑽しながら皆様の役に立てたらと思っている。

#### **(加藤部長)**

- ・続いて、石原委員にお願いする。

#### **(石原委員)**

- ・キャリア教育について、評価にもあるように地元を意識したキャリア教育の指導が盛り上がってきており、非常に良いと感じている。学力向上というのは、キャリアの指導と一体だと考えている。一方で、講師を招いて授業を実施する中で、事前・事後の指導が充実して行われているのか気にな

る部分がある。各学校で意見を出しながら引き続き実施していただきたいと思う。キャリア指導に関しては、すべての職業を網羅して紹介するのは無理だと思うが、地元で中心となっている職業を中心に紹介し、そこから繋がる学問であったり、先の進路を見据えた指導を学校ごとに特化して実施していただけたらと思う。産業界にも協力してもらいながらやっていただけたらと思う。

- ・キャリアの話については、どうしてその大学等に行くのかという指導がまだきちんと行われていないのではと感じている。「国立しか目指したらだめだよ」というような荒っぽい指導があることを聞いたこともある。先生も悩ましいことだとは思いますが、学校ごとにきちんと取り組んでいただければと思う。
- ・ICTの活用について、学校によってはスマートフォンを朝や放課後に使用して学習の記録を付けたり、アプリを使ったりしているところもあると聞いたことがある。文房具と同じようなレベルで、スマートフォン等情報機器を使いこなせるよう、学校でも活用して行ってほしいと思う。例えば、電子黒板の板書データを共有したり、学習記録を付けたりと、スマートフォンでできるのではと思う。そうすることで、生徒たちの学習が便利になっていくことだけでなく、先生の業務時間の改善にも繋がってくると思う。
- ・先ほど英語についても話があったが、学校の授業で要求されていることが多くなってきており、授業の中だけで全部やっていくことができない状況だということで、以前から、学習のコーディネートを学校でしっかりとしてほしいと伝えているが、参考書や映像教材を使い、年間の指導計画などを合わせて提示するなどの取組をやっていただけたらと思う。生徒たちは、YOUTUBE や色々な情報源があり、すごく振り回されている感じがする。スマートフォンも勉強自体に使いこなせていない。YOUTUBE を観て google で調べるぐらいのことしかやれていない子もいる。スマートフォンに限らず、年度当初に配られた教材がほとんど使われないまま学年が終わってしまうということもある。なので、先生には、生徒が授業外でどのような学びをしていった方が良いのか、そういうところまで含め指導を徹底して行ってほしいと思う。

#### **(加藤部長)**

- ・続いて、青戸委員にお願いします。

#### **(青戸委員)**

- ・病院でソーシャルワーカーをしているので、休職中の教職員の方と話をさせていただく機会があるが、学校の規模によって上司の配慮等、待遇が異なり不満を感じているという話を聞く。苦勞されている教職員の方はたくさんいるので、今後も色々な取組をされていく中で、教職員にも個々の状況に応じた適切な対応をしていただきたいと思う。
- ・30代後半から40代にかけて色々な負担が増える中で、うつ病になったり、休職するようになった際、長期化・重症化を防ぐためにも改めて対策を取っていくことは必要だと思われる。
- ・川崎市で起きた事件について、ひきこもりの話も出ているが、ひきこもりというのは結果であって、その前後の関わりが大切である。学校は、色々なことを細かく発見できたり、予防につながる情報発信もできる。また、地域の中で仕組みとして、安心・安全の環境の中で子どもたちが成長していけるような地域づくりが必要であると考えている。

- ・不登校の生徒について、精神科に受診しなくてはならなくなった子どもの中には、学校の先生から厳しい言葉を投げかけられたり、体罰に近いようなことをされたと訴える子どももいる。改めて学校ごとに適切な指導をお願いしたい。

#### (加藤部長)

- ・続いて、ご欠席の横井委員からご意見をいただいているので紹介させていただく。
- ・30年度教育大綱の評価については、理数系の学力低下に力を入れていかないといけない。スーパーサイエンスハイスクールについても、米子東高と青翔開智のみ。学力低下は、私立・公立共通の課題だと思うので、一緒に課題解決に向けて取組を行ったらいいのではとの意見をいただいた。
- ・不登校問題については、不登校の増加の原因分析に少し力を入れて対策を考えてはどうかとの意見をいただいた。
- ・教育に関する大綱の改訂案について、ふるさと教育の取組については、例えば若手企業家の情報などを生徒に教えていくと、Uターンや鳥取の応援団づくり、いわゆる関係人口にも繋がっていくのではないかという意見をいただいた。
- ・ICTの環境整備の充実について、まだ十分ではないので環境整備に努めてほしいとの意見をいただいた。教員の働き方改革にも繋がり、不登校や外国人の方にも有効ではないかという話をいただいた。
- ・美術館整備については、整備後の活用が大切だということで、積極的に活用していきたいとの意見をいただいた。
- ・続いて、教育委員の皆様にご意見を伺う。まず鱸委員からお願いします。

#### (鱸委員)

- ・私は、障がい児との関わりが多く、教育サイドからの意見と医療サイドからの意見の丁度間にいる。先日、NHKで起立性調節障がいがかローズアップされていたが病気のため学校に行けず不登校になる子どももあり、不登校の原因にも多様性があると思っている。
- ・大羽委員の話にもあったが、教育現場は、診断名ありきということに依存していると思う。通常学級か特別支援学級か、特別支援学級は知的なのか情緒なのかを決める場合、最も重要なのはその子を近くで見ている学校の見立てだと思う。この見立てを医師、臨床心理士も入った関係者で共有することが大切で、早期に関わることで、大羽委員がおっしゃられた学習障がいと同じような結果をもたらすのではないかと考える。診断名ありきの場合、インクルーシブ教育という概念から逸脱するケースも出てくるのではないかと考える。無理に整合性を合わせる必要はないが、教育現場の方でシステマ的に行われているのであれば、そこは少し変わるべきではないかと考える。
- ・不登校の生徒について、切れやすい子どもについても医療依存となっているケースがあると思う。これらの行動の背景には、単に子どもの発達障がいや精神疾患のみが原因ではなく、学校の対応の問題、環境の問題も非常に大きいと思う。以前、向精神薬について、担任の先生から「いい薬があるから病院を受診したら」と勧められたという話を聞いたことがある。向精神薬は飲むと体がだるくなり、頭の中の刺激を抑制する薬なので非常に疲れやすくなる傾向にある。薬の前に、学校現場では色々な要因を検討するための質を上げることが必要だと考える。不登校となった原因の中には、両親が子どもの頃に起こったことも関係性があると専門の先生も言われており、そういうことを考えると、学校現場は、現代の子どもの教育に必要な知識、スキル、学習障がいの教育、教育ニーズ

アセスメント、虐待、愛着障がいなどを理解する必要があるが、教師だけでは難しいので臨床心理士等の専門職としっかり連携を取っていくことが大切だと考える。

- ・教育現場は、一般の方からすると非常に敷居が高く感じられているように思う。そういった教育現場の体質的なところも教育委員として考えていかなければいけないのではと思っている。

#### **(加藤部長)**

- ・続いて、佐伯委員にお願いする。

#### **(佐伯委員)**

- ・有識者の皆様に対し、各分野においた貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。私の方からは、大綱の改訂に向けて感じていることを話させていただく。コミュニティースクールの導入について、最初の頃は、少し抵抗感を持っている学校現場もあったように思うが、導入が進んできていると嬉しく思った。今回のような痛ましい事件が起こると、やはり学校現場だけでは取り組めないことがあり、地域の方のお力添えをいただきながら少しでも前に進んでいけるようにと願っている。大綱の第二編に地域学校協働本部を各小中学校区すべてに設置したいということが書かれているが設置することで地域の方も学校に入りやすくなり、学校の方も安心して開けるような形で進んでいくことが大切だと感じているところ。その取組が進んでいくことにより、教職員の方は、授業に専念できる時間を確保でき、そこに力を注いでいただきたい。
- ・石原委員がおっしゃるように学力向上にキャリア教育というのはとても重要なことだと思っている。教育委員会でも力を入れて取り組むため、キャリアパスポートを導入する予定である。小学校から高校生まで個人が継続的に所有し、自分を振り返りながら自分の生き方、キャリアの形成を図るものであり、とてもいい取組だと思う。
- ・今の子どもたちは、自信を持ってやりたいことに取り組める子どももいれば、周りからの評価を受ける中で、満足な評価を得られず、自信が持てないという子どももいる。キャリアパスポートを作る中で、教職員もその子の良さをきちんと分かるようになり、「自分ではできないと思っていたができた」、「あの時の失敗が次に活かしている」というような気付きにも繋がると思った。今年度、キャリアパスポートを有効に活用するための研修会が予定されているので、先生方も負担に感じるのではなく、目の前にいる子どもたちのために、有効に活用していただきたい。また、自分ができないと思っている子どもたちに、キャリアパスポートを活用する中で自分自身の可能性を自覚し、自信に繋がっていくような取り組みになったらと感じる。
- ・大羽委員からも話があったが、教職員にとっては、LD等専門員や通級指導の担当者に示唆していただくのはとても有り難いこと。適切な助言をたくさん得られ、そういった関わりを通して教育環境を変えることができ、力を発揮できる子どもをたくさん見てきた。今、LD等専門員や通級指導の担当者は足りていないところもあり、そういう方を養成する予算も計上されているようなので、少しでもそういった専門的な知識を有する方が増え、現場の先生がアドバイスを得ながら、毎日の授業の中でそれが活かされることにより、学力向上にも繋がり、生きていく力にも繋がっていくのではないかなと感じている。地域の方の力も借りながら、先生方が学校教育の中で、一人一人子どもの特性に目を向けながら力を伸ばしていけるという現場が実現できることを、私たちも出来ることを取り組んでいきたいと思う。

**(加藤部長)**

- ・続いて、若原委員にお願いします。

**(若原委員)**

- ・英語教育について、かつて文法中心、読み書き中心の英語教育が行われていたが、最近は4技能型の教育が重視されているようになってきている。この大きな背景としては、大学入試が4技能型の入試に変わってきているということがあると思う。そういう視点で言えば、内容は変わっているけど、受験のための英語という性格は変わらず続いていると思う。単なる受験英語ではなく、英語教育そもそもの目的は何なのか、学校側で英語教育の理念をきちんと考え、検討した上で、英語教育の在り方について今度取り組んでいく必要があると思っている。受験英語もちろん大切だが、それだけで良いのかという思いがある。
- ・ふるさとキャリア教育について、先ほど、佐伯委員もおっしゃったが、キャリアパスポートの導入を予定している。自分の将来のキャリアを見通して、目的を持って学ぶことで、教育効果が上がることが期待される。同時に、キャリアパスポートによって、自分が学んできたことの成果を積み重ねることができ、キャリアパスポートの導入は大きな意味があると思う。
- ・大学では、ポートフォリオと呼ばれることが多いが、大学でもポートフォリオを作るところは増えてきている。大学によっては、大学入試の時に高校に対してポートフォリオの提出を求めたり、入学する時に提出を求めたりするようになってきている。このキャリアパスポートあるいはポートフォリオを活かしていくためには、小・中・高・大という学校間の接続ということが重要になってくるように思う。そういうことを意識しながら作っていくことが必要だと思う。
- ・川崎市で起きた事件について、児童生徒の安全確保はもちろん最重要課題であるが、それと同時に事件を生まないための取組も学校教育の中で出来る範囲で取り組んでいく必要があると思う。教育振興基本計画に盛り込んでいたが、学校教育の中で自尊感情あるいは、自己肯定感をいかに育てていくかということを重視した教育に取り組んでいくことを課題の一つとして挙げている。能力主義的な競争社会の中で、競争にさらされている面があるが、その中で勝ち組・負け組みたいな組み分けをしてしまうことのないよう、自分を尊重する自己尊重と同時に他者も同じように尊重する、そしてまた他者と繋がっていく、そういったパーソナリティを育てていくことが、学校教育の中でも出来る範囲でやっていく必要があるのではと思う。先ほど、臨床心理士の活用ということが話に出たが、このような事件が起きないように、学校教育においてもその背景や基盤づくりに寄与していく必要があると思う。

**(加藤部長)**

- ・続いて、中島教育長職務代行者にお願いします。

**(中島教育長職務代行者)**

- ・色々なご意見をいただきお礼申し上げます。毎回多様な意見をいただき、なかなか指摘いただいたことに対応しきれているのかなと、短期的に答えが出ることはあまり無いため、難しいということもありつつ、課題に対して、うまく対応が必ずできていないという隔靴搔痒（かっかそうよう）の感を少し感じているところ。
- ・毎回出ている課題として、一つは学力をどうしていくかということで、これは下位層の学力をどう伸ばし、上位層の学力をどう更に伸ばしていくかということかと思う。先ほど、大羽委員からも算

数の授業の話があったが、指導主事がほぼ全ての学校を訪問し、授業の課題を抽出し、モデル的なことを提案していこうという中で、やはり学校の勉強が楽しい、分かる楽しさということがあり、そういうスキルの部分での向上が、インプット系の知識・技能という部分と、認知系の能力という部分と非認知系のコミュニケーション能力というところの2層をしっかりと育てていかなければいけない。インプット系の学力については、傾向と対策を練っていくことで、その効率を上げていくということは可能になっていくと思う。上位層の伸長は、現実的には難しいことである。競争が激しくなり、色々な形で資源の投下を効率的に受ける子どもたちに対して、鳥取県の子どもたちがその土俵に立った時に勝つためには、どのようにサポートできるかということについて、教育委員会でも、もう一段できることを考える必要があると思う。

- 大きな課題は不登校で、ある程度分析的に取り組めるところもあるのかなと思う。ご指摘いただいた教育と医療をつなぎ、困難感や障がいの把握をなるべく早期に介入することで、不要な形での学校からの離脱がなるべく無くなるようにできるのではと思う。不登校の課題については、何とか結果を出していかなければと思う。
- 教員のメンタルヘルスケアの問題については、鳥取県の学校教育の魅力は何かということをもっと胸を張って語れるようにしていかなければと思っている。一つはインプット系の学びということをしっかりやっていくことと、新しい時代の中で、一人一人の個性が尊重され、大事にされて伸ばすことができる教育環境をどのように作っていくかが大事だと感じている。それが自己肯定感にも繋がり、先生方のメンタルヘルスケアの問題にも通じ、トータルに改善していく中で、互いが尊重され、個性が伸ばされていくと考える。学校教育も社会教育もそういうコミュニティだということが鳥取県の大きな魅力になっていかなければならないと感じる。
- 最後に、芝生の話について、上萬委員がおっしゃられるとおりだと思う。オリンピックも近づく中で、芝生の上でスポーツを楽しみ、自然の中でスポーツを通して自分の生きている喜びを感じる、そういったコミュニティのポテンシャルを鳥取県は圧倒的に持っており、芝生というのは非常にいい材料だと思う。芝生の上を歩くとわくわくするという感じは私も非常によく分かる。こういうものが活かされていくということは、学校教育の中でも、子どもたちに喜びを知ってもらうという入り口のところの体験など、色々なことを揃えていくことができるのかなと感じた。

#### **(加藤部長)**

- それでは、次に山本教育長にお願いします。

#### **(山本教育長)**

- 委員の皆様には毎回貴重な意見をいただき感謝申し上げます。一つ一つ丁寧に検討し、対応できるものから順に対応してきている。色々評価をいただいた項目もあったと思うが、トータルとしては、学力にせよ、不登校にせよ、やっていることが必ずしも結果にコミットする状況にはないが、色々な角度から対応を行っていく必要があると改めて感じたところ。
- いただいた意見にお答えさせていただくと、長曾委員がおっしゃられた英語教育については、おっしゃられる通り、なかなか難関国立大学の合格と、今求めている4技能をバランスよく育てていくのは両立しづらい分野ではあるが、両立していかざるを得ないというのが我々の使命でもある。文法などは、確かに二次試験において未だに重要視されているという部分もあるが、高度な文法を求められているわけではないという分析も一方では行っており、その辺りを上手にバランスよく学ん

でいくということが、学校の授業の中でも求められており、それとは別に難関国立大学については、普通の授業とは別に難関校を目指す合同合宿などを行っており、過去間なども含め、文法を教え込むということはなかなか難しいかもしれないが、学び方という観点で文法なども含めて取り組んでいるところ。引き続きご指導いただけたらと思う。

- ・英語教科が小学校に導入されるため、これまでの日本で行っていた学び方というものを従来通り小学校に下していくだけで良いのかなという議論もあると思う。鳥取らしいメソッドで小学校のころから英語耳を作っていくようなところからやっていくことも含め、この度の予算の中でもALTや島根大学の教育学部とも相談しながら築いていくための予算要求をさせていただいているところ。英語教育は、今転換期にあるので、鳥取県らしい英語教育ができればと考えているところ。
- ・上萬委員がおっしゃられた遊びの王様ランキング、芝生等について、骨折している子供たちの姿が気になるという話もあったが、体の使い方が少し下手になっているかもしれないと感じている。そういう意味では遊びの王様ランキングで、色々な遊びの中で体を使うことを進めているところである。先ほどの話と合わせると、例えば芝生グラウンドで少々転んでも怪我をしないという状況の中で、上手に遊べるというような種目を遊びの王様ランキングの中に新たに作り、それを競っていくような新たな取組を始めても面白いかなと思う。運動量1時間の話もあったが、スポーツ少年団だけではなく、遊びの中で運動するという事で体力をつけていくということなども含めて対応できればと思う。
- ・大羽委員のお話の中に、評価の軸の話がございましたが、今は一方的に学力・成績で評価することが多いが、最終的には自分自身の中で評価軸を持つということが一つ大切だと思った。そういうことが自己肯定感に繋がっていくのではと思った。中島教育長職務代行者の方からも話があったが、そうした観点も含め、取組を強めていかなければならないと思ったところである。学力向上については、日々の積み上げが大切だと思っている。いかに45分の時間で子どもたちを楽しくわくわくさせることができるかというのは、教員の力量にかかっており、そのような意味の指導力を高める取組を引き続きやっていきたいと思う。
- ・石原委員からは、キャリア教育、ICT機器の活用のお話があった。いずれも本当に大切な視点だと感じた。ICTをこれからどう活用していくのかというのは大きな課題だと思う。現在、一部の高校では、自分でiPadを購入し、授業に臨むというような学校も出てきており、小学校の中には一人一台体制となっているような学校も出てきている。ICTを上手く活用しながら、一方で教員の働き方改革につながる部分もあり、取り組んでいければと思っている。
- ・青戸委員からは、教職員の心のケア等についてお話があった。教職員も日々戦いの中にいるため、色々なケアが必要な状態になる先生もいらっしゃる。職場の風土や学校内のチームワークなど、管理職の責任だけではなく、そうした体制が適切に整えられるよう、教育委員会からもアドバイスをしていきたいと考えている。また、支援センターでのひきこもりや不登校状態になっている方へのアウトリーチなどもしっかりと取り組んでいければと思っている。本日は、本当にお礼申し上げます。

#### (加藤部長)

- ・それでは、本日は統轄監にも出席していただいたのでお願いします。

### (高橋統轄監)

- ・ 県全体の総合調整を行っており、教育委員会とも連携して頑張っていきたいと思うのでよろしくお願ひする。本日は、非常に良いお話をたくさん聞かせていただいた。特に、引っかかったのが石原委員がおっしゃった「キャリア教育と学力向上は一体だ」ということについて。どうして学校に行くのか、そういった目的意識が不十分だというところがある。今回の柱として「ふるさと教育」を一つの柱として入れ、キャリア教育のところでも、教育委員会で系統的な取組を実施されるということで、知事部局も一緒にやっていきたいと思っている。そういった中で、石原委員や横井委員から、地元の若手企業家などの企業と結び付けていくことが必要ではないかという話があった。佐伯委員や若原委員からは、キャリアパスポートを効果的に使わないといけないという話があった。やはりそういった目的を持って将来を育み、全国で活躍することもそうだが、ふるさとに誇りを持って鳥取県で働きたい、暮らしたい、ここに魅力を感じている地域の担い手・若者を増やしていくことが県にとっても人口減少・少子高齢化の大きな対策の軸に繋がると思うので、ぜひ教育委員会とも連携して取り組みたいと思う。
- ・ 今回、大きな事件が起きたが、ひきこもりであるとか、虐待であるとか、非常に痛ましい事件が続いている。不登校とかいじめの問題もなかなか解決が難しい中で、専門家の活用や子どもの頃からの自己肯定感の育成は、教育委員会と福祉の部局をはじめ色々なところと連携して取り組まないといけないので、よろしくお願ひしたい。
- ・ 新鮮だったのが、上萬委員からご意見のあった、芝生の公園で子どもたちが遊んでいないというもの。芝生化をどんどん進めている鳥取県で、子どもたちが一緒に走って遊ぼうなど、意外に盲点だった。スポーツ部局でも話をさせていただきたいと思っている。

### (加藤部長)

- ・ それでは、最後に平井知事にお願ひする。

### (平井知事)

- ・ 本日は、大変貴重な意見をいただき感謝申し上げます。先ほど、教育長からもまとめがあったが、キャリアパスポートやICT等の活用、ALTを活用した英語教育、高大接続等取り上げていただいたが、今、大綱や補正予算で考え、用意しているところ。具体化する中で今日のお話は非常に貴重なもの。ぜひ活かして、教育委員会でも具体策を考えていただきたいと思う。
- ・ 不登校の問題は、専門的なアプローチが重要であることを、本日も委員の方からご指摘いただいた。これをしっかりと活かして行ってほしい。今回の痛ましい事件も、社会の中で孤立してしまったことが背景にあり、子どもの頃からの複雑な家庭環境の中で起きたのかなとそのような報道にもなってきた。自己肯定感であるとか、教育だけでなく、福祉、医療と繋がりを作りながら、ひきこもり対策などをやっていく必要がある。ひきこもり対策については、6月補正で別途400万円程度予算を組んでいるところ。本日も色々とお話があり、取組に活かしていければありがたいと思う。
- ・ 本日はいただいたお話は、教育委員会とも一つ一つ分析させていただき、大綱の方にも最終的には7月あるいは6月いっぱい、夏頃にはまとめさせていただきたいと思うので、また個別に委員の方と協議申し上げたい。
- ・ 安全対策について、従来、安全と言われていたスクールバスだが、そこに行列ができ、集団が形成されたところに襲いかかったという想定外の状況になった。この辺については、大綱の中に一通り

記載されてはいるが、1行・2行はやはり今後の検討の方向性なり、取組の方向性を書くべき部分があるかなと思っている。教育委員会と協議申し上げたいと思う。

- ・芝生の話もあったが、お金も、多くの方が夢をかけて芝生の広場を作ってきたのが鳥取の良いところでもある。今、その鳥取の芝生も東京オリンピックのスタジアムやワールドカップのスタジアムで活かされるように発展してきている。うまく活用できていないのはもったいないこと。中島教育長職務代行者がおっしゃたように、芝生の上にいるとやっぱりわくわくする、芝生も芝居もわくわくする。中島教育長職務代行者のお言葉の中に色々な含みを感じたところ。ともかく、こうした教育資源を活かせる場があるのではないかなと思ったところ。本日は、本当に貴重なご意見をいただきお礼申し上げます。

**(加藤部長)**

- ・それでは、令和元年度第1回鳥取県総合教育会議を終了する。